

令和7年度 大田区立小池小学校 自己評価 報告書

令和8年3月6日

○ 本校の概要

学級数26 児童数819名
 ①子どもが楽しく登校し、喜びの中で育つ学校②保護者から信頼され、安心して子どもを預けられる学校③地域に愛され、共に子どもを育む学校④教員が自らの職責を誇りに思う学校と、学校の経営方針に掲げてよりよい学校を目指している。
 「おたの未来づくり」では、地域との連携を深めて校内研究を中心に、未来社会を創造的に生きる児童の育成を図っている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価人数	コメント
生予個 き測別 力難標 をな1 育未成 来社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4: 90%以上	4	①課題解決力を高めることや新たな価値を創造する力の育成について、教職員で意識しながら取り組んだ。このことがアンケート結果で9割を超えた要因の一つだと考えられる。しかし、本校の研究等にSTEAM教育とのつながりの理解が不足している。意識して取り組めるよう研究構想図に位置付ける等、実践する。	A	10
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 70%以上				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 70%未満				
②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	3: 80%以上	4	②各学年で体験活動や振り返りを重視した学習過程を設定した。異なる立場の人と関わりながら学びを深め、自ら考え判断する力や他者と協働する力が成長が見られた。しかし、スマイルサポート小池やゲストティーチャー等に授業の意図や目的を十分に伝えられなかった部分がある。今後、授業協力を依頼する上でねらいを明確に伝え、よりよい授業にしている。	B	5
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 70%以上				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 70%未満				
			③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。		3				
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上								
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%未満								
1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満								
④ものづくりや地域の創生に必要な知識及び技能を身に付け、試行錯誤して地域や社会のWell-beingにつながるものや取組を発信したり、自分や他者のよさを生かしてよりよいものを創出しようとしていたりしている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	3: 80%以上	4	④おたの未来づくり科の実践が自分や他者のよさを生かしてよりよいものを創出していることにつながる。Well-beingにつながる取組について重点的に行う必要がある。	D	0
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 70%未満				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 70%未満				
			お世個別 お界別 たと目 を標 担な2 が人 材国 を際 育都 成市 し ま す		英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協働していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。				
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上								
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%未満								
1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満								
②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	3: 80%以上	4	②各学年で、地域・社会と交流する授業を行った。相手の立場に立つて考える機会を増やしたことで、それが発言や記述に表れた。今後、外国文化の体験的な学びを深め、互いに尊重できる心の育成を図る。	B	4
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 70%未満				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 70%未満				
			③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。		3				
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%未満								
1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満								
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが 個 な 性 力 と 能 力 を 発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3	4: 90%以上	3	①道徳教育研究会やOJT研究会を通じて、道徳科の内容や指導法について理解を深め、授業の改善を図ることができた。道徳と各教科や行事等の関連を示した資料である別業を参考に、各教科等の授業や学校生活について、道徳と結び付けているかを考えながら引き続き指導していく。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%未満					
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満					
②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	3: 80%以上	3	②〈現状・成果〉大田区学習効果測定において、達成率は4・5・6年全てで算数と国語共に、全国の達成率を約0.1回った。平日補習の実施により、算数の基礎的な技能を高めた。また大田区漢字検定受験を通して基礎的な漢字の読み書きについての学力を高めた。今後は、算数は、平日補習や習熟度授業展開により、確かな学力の育成を図る。国語は、漢字検定に向けての取組を引き続き行うとともに、図書館司書と協力しながら読書環境を整えていく。	B	7
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 70%未満				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 70%未満				
			③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。		3				
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%未満								
1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満								
④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3	3: 80%以上	3	④小中一貫教育の会をきっかけとして、中学校との接続を図るよう努めることができた。小中一貫教育の各部分の成果を研究発表会と研究紀要で共有し、今後の指導に取入れる。また、おたの未来づくり科や中学校側の職業体験等のねらいを明確にし、双方の連携が円滑に行われるよう計画的に実施していく。
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%未満					
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満					

学個別力・目標・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 90%以上	教職員アンケート「校内研究やOJT等の校内での支援体制のもと、やりがいをもって働くことができる職場環境になっている。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した教職員の割合	1	70%以上	A	5	○学校や地域の特徴を活かした取り組みが見られる。 ○働き方改革の取組にはさまざまな問題があると思う。先生方の対応は大変であると感じる。数字ではあらわせないものも多々あると思います。 ○大変な課題だと認識しています。タイムマネジメント、業務の適正化と授業の質、教育の質は相関関係にあると思います。教員のモチベーションにも影響するところで教員が「孤立化」しないように今後も仕組みづくりと、その仕組み作りが思い通りにいかに、管理職層の皆様のサポートが重要になると思います。 ○業務の適正化(働き方改革)の取り組みとして保護者・外部への教諭業務の可視化を取り上げていた。とても重要で進めてほしい。ただ、これは学校単位でなく、文科省、国がもっと具体的にすすめていくべきことで、現場で対応しようとするほど、業務の適正化が遠くなるのが実情であると考えます。③④にたいする教職員アンケート結果が低くなるのは当然で、小池小はその中でできることに対応していると思う。人員の増強、賃金の改善、業務内容の精査とどこまでが教育の範囲かを定め、学校一保育共有の認識を持てるかが重要であると思う。 ○小池小の先生の実際の労働時間はわからないのですが、私の勤務する研究所の調査では、先生方はほぼ労働の条件には動機付けられておらず、仕事の楽しさ、生きがい感のみに動機付けられているという非常に特殊な職業であることが分かっています。個々の先生の能力を上げたりタイムマネジメントをするのはとても大切だと思いますが、限られた中でこれ以上勉強していただくというのには、残念ながら、それだけでは得ないこと(発達障害、クラス運営、配布物の既時改善、外国にルーツを持つ生徒対応、...)等をもって部活や部外活動や学年や年代をまたいでご自身の仕事を抱えたりできるものもありません。」「やっていたいことに罪悪感をもたないでいただきたいです。十分なで。保護者・地域みんなの責任です。
		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上						
		2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上						
		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満						
た自個め別の目標を学ばせたい。いきいきと生きる	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 90%以上	保護者アンケート「一人ひとりのことを大切にしながら指導している。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した保護者の割合	3	70%以上	A	7	○もっとオープンな情報の取り扱いを期待したい。 ○スクールカウンセラーを上手に使い、保護者と連携を深めて楽しい学校生活を送れるようにしてほしい。 ○いじめが発生した場合、適格な相談者がいることで児童を支援してほしい。 ○いじめは減っているとお話で安心しました。いじめは早期発見・早期対応が重要で、学校と家庭との連携が必要で、共通のこ家庭が増える昨今の状況で、保護者がお子さんと一緒に過ごす時間も減っているため発見が遅れがちだと思います。また、SNSやメッセージアプリの普及により、見えない場所でのいじめが増えていると思います。保護者だけでなく児童たちからの情報提供も密にしていきたい。 ○リスクヘッジの意味で言うと、教員の障害者(福祉)に掛かる最低限の最新の知見に触れる機会を持ってもらえればと思います。 ○いじめ対応の状況をもう少し保護者に発信して頂いても良いのではと思います。当然、個人情報保護は徹底されますが、例えば、相談件数、対応件数、結果(解決、継続中など)大まかな類型など、一般的なデータを公表することで、学校の取り組みの理解促進をいじめ対策は、保護者と学校の協働作業である「事の認識醸成につながる」ではないでしょうか。 ○教諭以外の配置が厚いと思う。「担任と連絡してあたる体制」「いじめのフローチャート」「事実確認を正確に」「SNSトラブル」(把握しづらい)一これらへの取り組みに対して良いと思う。一方これら(インクルーシブ教育含む)に対応することで、個別目標4-③④の取組に相反する事象とならざることを懸念する。 ○インクルーシブの概念を当たり前に当たり前の早ければ良い良いと思います。外国にルーツを持つ千への特例見直しの子供をみて、驚くほど少ないから自らに見えぬもの、見えぬものを含め、困難や生きづらさ、特性についてはお話しなどではないかと知識や経験でふれてほしいと感じます。ただSCさんの需要が高すぎる、予約が困難な状況でその間一日の子供の様子は変化していくので、何とかSCさんを通さないと親が動けない案件もあるのでは、いじめは初期消火が本当に大事だと思います。ターゲットがいればいじめもよいという認識が強固になりますが、あまりにも強固だと変えるのが困難だと思います。いじめている方を成敗するも根本的解決ではないので、本格的になる前にいじめている人がマイノリティ(誰もいじめのよらなくていい)というリアリティをいかに早急に作るかが勝負だと感じます。保護者の目はざつと必要なので、少しの異変でも学校に伝えてほしいです。学校での現場がわかるのは先生だけなので。
		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上						
		2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上						
		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満						
安柔個心軟別なで目標教育造6環的なを学習空間と安全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 90%以上	保護者アンケート「学校は、安全教育(不審者対応・交通安全・避難訓練等)に努めている。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した保護者の割合	4	70%以上	A	10	○ぜひオープンスペースの整理整頓をやってほしい。荷物置き場となっている現状とてももったいないと感じた。 ○活用されているとは思いますが、本園では「災害伝言ダイヤル」の訓練を実施しています。毎月1、15日はNTTが体験用に開放しており、年1回はありますが有用であると思います。 ○大変すばらしいです。学校の造りもすばらしいです。
		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上						
		2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上						
		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満						
学地学個別をコア・目次ミ家庭く度7リニ・地すイ域の核と携して協働による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 90%以上	保護者アンケート「保護者や地域と連携しながら教育活動を進め、開かれた学校とする努力をしている。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した保護者の割合	3	70%以上	A	10	○日頃から多くの方との交流が見られています。 ○地域と学校が連携がうまくとれれば良いと思う。 ○交通指導員や地域の方々の見守り活動等と学校の連携を強くして、より良い環境の学校づくりをしてほしいと思います。 ○様々な場面におきまして、児童館や学童と連携していただいていること心から感謝いたしております。 ○教職員アンケートが95%と高い理由をもう少し深堀りしたいです。 ○地域で出来ることあれば協力してまいります。 ○学校公開時の講演については準備は大変だと思いますが、3～4のテーマに分けてワークショップやミニ講演会などを開催すると参加者も増えるかもしれません。 ○①③については保護者として評価基準を適切にもつことが難しいため、教職員アンケートとの乖離するものだと感じます。学校の活動を自ら受け取るうしない限り評価が上がることはないと思うので、tetoruの活用などにより保護者の意識が変わるの興味深い。現在の取り組みよりグレードアップすることによりtetoruを含め、伝え方の工夫に軸を置く姿勢は共感です。本目標については特に教職員の業務負担とならない方法でできることが望ましいと思う。 ○「連携」を測定するのはすごく難しいと思うので、95%の教職員の方がどうして「連携」できているのか、質的な情報が欲しいなと思いました。(できていないという意味ではなく)こういうのは、関係者が「できた」と思えばできていないのだから、来年増えれば、「よりできるようになった」と考えるしかないのかなと思うので、現段階でより具体的なスコアであれば、現状を維持していることでもよいのでは、と思いました。来年CSIにのるので、来年、発信を増やして保護者のスコアがさらにアップしているように思いました。また、地域で同様の調査がおこなわれているのであれば比較するとより現実がわかりやすいと感じます。
		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上						
		2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上						
		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す